

思春期についての研究
Study of the adolescence

研究者紹介

岩宮恵子 (人間科学部・教授)
Keiko Iwamiya (Professor, Faculty of Human Sciences)

概要

世の中がいくら物質的に豊かになり、便利になったからといっても、ひとの悩みや問題は少しも減りません。テレビゲームやインターネットなど、昔にはなかったものがどんどん子どもの生活のなかに入ってきているため、子どもが「自然に」育つことも難しくなっています。その時代の空気が一番、敏感に反応しているのは子どもたちです。そしてそのプラス面やマイナス面がもっとも強く出てくるのが思春期なのではないかと考えています。

私は臨床心理士という仕事柄、実際に悩みや問題を抱えている子どもたちや、その保護者の方たちとお会いしています。そのなかで、今現在を生きている子どもたちの心のなかで何が起きているのかを常に考えています。そして、昔から存在している普遍的な思春期の問題と、現代特有の傾向について考察しています。

Children sensitively react to the society that has been changing day by day. I have been Considering that children in adolescence are most easily affected by positive and/or negative aspects of the society. As a clinical psychologist, I meet those children and their Parents who actually have a problem or trouble. I have now been studying on such children's mind, and examining traditional issues of adolescents and their current tendencies.

特色
研究成果
今後の展望

[特色] 思春期について考えるに当たっては、漫画やアニメ、話題になったドラマや小説などが非常に重要な意味を持つのを感じています。そのため、「千と千尋の神隠し」や「もののけ姫」といったアニメや、「陰陽師」「デスノート」などといった漫画を題材にして論文も書いています。「冬のソナタ」がなぜあんなにも中高年の女性的心をつかんだのかということについても、思春期から見た切り口で論じましたし、「ヒカルの墓」における思春期と喪失の意味についても、著作に著しています。また、村上春樹やよしもとばななといった世界中で読まれている文学に描かれている思春期の在りようからも、思春期の深層心理について考察しています。

[研究成果] 「フツの子の思春期～心理療法の現場から～」という本を岩波書店から刊行しました。思春期の子どもをめぐるさまざまな現代的な問題を、今までの当たり前である「ふつう」と、新たなスタンダードとしての「フツ」いう区分けをして、論じました。



キーワード

思春期臨床・異界のロジック・物語・スクールカウンセリング

リンク

<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/staff/staff07.html>